

【 復活のトロパリ 第3調 】

てんに ある も の た の し め よ 、 ち に ある も の
天 在 者 樂 地 在 者

よ る こ べ よ 、 し ゅ は そ の ひ ぢ の ち か ら を あ ら
悦 主 其 臂 力 顯

わ し て 、 し を も っ て し を ほ ろ ぼ し 、 ふ 復
死 以 死 滅

く か つ の は じ め と な り 、 わ れ ら を ぢ ご く
活 首 我 等 地 獄

の は ら よ り す く い 、 せ か い に お お い な
腹 救 世 界 大

る あ わ れ み を た ま い た れ ば な り 。
憐 賜

【 日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ 第4調 】

し と と ひ と し く ど う ざ な る も の 、 ち ゅ う
使 徒 等 同 座 者 忠

じ つ に し て し ん ち な る ハ イ ス ト ス の え き し ゃ 、 せ い
實 神 智 役 者 聖

な る し ん に え ら ば れ た る ふ え 、 ハ イ ス ト の あ い
神 撰 笛 愛

に み ち た る う つ わ 、 わ が く に の こ う
満 器 我 國 光

し ょ う し ゃ 、 あ し と し ゅ き ょ う せ い ニ コ ラ イ
照 者 亜 使 徒 主 教 聖

よ、なんぢのぼくぐんのため、および
爾羊群た爲お及

ぜんせかいのたために、いのちをたもうせい
全世界た爲生ち命賜うせ聖

さんしゃにいのりたまえ。
三者祈給え。

【 日本の亜使徒聖ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこいとせいしんにき
光栄父子と聖いしんに歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
成聖者亞使徒聖我

くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
國爾旅人及異邦人受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
爾は初我國お於己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストの
外來者知れども、ハリストの

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光暖かき流爾敵

きをぞくしんの子となし、かれらにか
屬神子となし、かれらにか



みのおんちょうをあたえ、ハリストのきょうかいをたて
 恩寵 與 教 會 建
 たり、いま此のきょうかいのためにより
 今 此 教 會 爲 祈
 たまえ、けだしわれらそのしよしはなん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べよ。

【 復活のコンダク 第3調 】



いまもいつもよよに、アミン。
 今 何 時 世 世
 じれんなるしゅよ、な んぢは いまはかよりふ
 慈 憐 主 爾 今 墓 復
 くか つして、われらをしのもんよりのぼせ
 活 我 等 死 門 升
 たまえり。いまアダムはたのしみ、
 給 今 樂
 エヴァはよろこび、しよげんしゃはれつそとと
 歡 諸 預 言 者 列 祖 偕
 もにたえずな んぢのけんぺ いの しんせい
 絶 爾 權 柄 神 聖



な る の う り ょ く を ほ め う と う 。
能 力 讃 歌

司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有
となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾
り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行なう者を棄てずして、其救の爲に
痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が
聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる
ものとなしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の
仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈
と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖
なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
に、



ア ミ ン。

【 聖三祝文 】



せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る
聖 神 聖 勇 毅 聖
じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
常 生 者 我 等 憐
よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い
聖 神 聖 勇 毅 聖



なるじょうせい のものよ、われらをあわれめよ。
 せいなるかみ、せいなるゆうき、
 せいなるじょうせい のものよ、われらをあわれめよ。
 こうえいはちとことせいしん
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。
 せいなるじょうせい のものよ、われらをあわれめよ。
 せいなるかみ、せいなるゆうき、
 せいなるじょうせい のものよ、われらをあわれめよ。

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 プロキメン 提綱 主日第3調 】

司祭) つつし き しゅうじん へいあん
 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) なんぢ しん
 爾の神にも、

司祭) えいち
 睿智、

誦經) ^{わ かみ うた うた}プロキメン、我が神に歌い歌えよ、^{わ おう うた うた}我が王に歌い歌えよ、



誦經) ^{ばんみん て う よろこび こえ もつ かみ よ}萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ、



誦經) ^{わ かみ うた うた}我が神に歌い歌えよ、



【 アポストロス 使徒經 250 端 コロサイ書 1 章 12 節～18 節 】

司祭) ^{えいち}睿智、

誦經) ^{せいしと じん たつ しょ よみ}聖使徒パウエルがコロサイ人に達する書の讀、

司祭) ^{つつし き}謹みて聽くべし、

誦經) ^{けいてい われかみちち かんしゃ そのわれら め しょせいと とも こうめい ぎょう ぶん}兄弟よ、我神父に感謝す、其我等を召して、諸聖徒と與に光明の業に分あらし

^{もつ}むるを以てなり。^{かれ われら くらやみ けん すく}彼は我等を黑暗の權より拯いて、^{そのしあい こ くに うつ}其至愛の子の國に遷せり、^{けだしわれ}蓋我

^{らかれ よ}等彼に由りて、^{そのち もつ}其血を以て、^{あがないおよ つみ ゆるし え}贖及び罪の赦を得たり。^{かれ み べ}彼は見る可からざる神の像に

^{ばんぶつ さき うま}して、萬物の先に生れたる者なり。^{もの}蓋萬物は彼に由りて造られたり、^{けだしばんぶつ かれ よ つく}天に在る者、地

^{あ もの み べ}に在る者、^{もの み べ}見る可き者、^{もの あるい ほうざ あるい しょせい あるい しょりよう あるい}見る可からざる者、或は寶座、或は主制、或は首領、或

^{けんべい}は權柄、^{いつさいかれ もつ}一切彼を以て、^{かつかれ ため つく}且彼の爲に造られたり。^{かれ ばんぶつ さき}彼は萬物より先にして、^{ばんぶつ かれ}萬物は彼

^よに由りて立つ。^た且彼は其體たる教會の首なり、^{かつかれ そのからだ きょうかい かしら}彼は元始にして、^{かれ げんし}死の中より首めて

うま もの そのばんじ おい しゅ ため
生れたる者なり、其萬事に於て首たらん爲なり。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいつさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。そして自らは、そのからだなる教会のかしらである。彼は初めの者であり、死人の中から最初に生れたかたである。それは、ご自身がすべてのことにおいて第一の者となるためである。

【 アリルイヤ 主日第3調 】

司祭) なんぢ へいあん
爾 に平安、

誦經) なんぢ しん
爾 の神にも、

司祭) えいち
睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) しゅ われなんぢ たの ねが われよよ はぢ え
主よ、我 爾 を恃む、願わくは我 世に羞を得ざらん、



誦經) わ ため けんご かくれが われ つね かく え たま
我が爲に堅固なる避 所となりて、我に常に隠るるを得しめ給え、



司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん}人を愛する主 宰よ、我が 心 に神を知る智慧の 浄 き 光 を 輝 かし、我が思念
^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ おそ}の目を啓きて、爾 が福音の 教 を悟らしめ給え、我が衷に 爾 の福たる 誠 を畏るる
^{おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ おも か おこな}畏 をも入れて、我等が 悉 くの肉體の慾を踏み、凡そ 爾 の 喜 ぶ 所 を思い且つ 行
^{ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ なんぢ わ たましい からだ}いて、屬 神の生活を通るを致させ給え、蓋 ハリストス神よ、爾 は我が 靈 と 體
^{こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん いのち ほどこ なんぢ しん}との 光 照 なり、我等 爾 と 爾 の無原の父と至聖至善にして生命を 施 す 爾 の神とに
^{こうえい けん いま いつ よよ}光 榮 を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【 エヴァンゲリオン 福音 經 ルカ福音書 85 端 17 章 12～19 節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん}睿智、 肅 みて立て聖 福音 經を聴くべし、衆 人に平安、



司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ}ルカ傳の聖 福音 經の讀、



司祭) ^{つつし き か ととき あるむら い らいびょうしゃじゅうにんかれ むか とお た}謹 みて聴くべし、彼の時 イイスス或 村に入るに、癩 病 者 十 人彼を迎え、遠く立ち
^{こえ あ い ふうし われら あわれ かれら み い ゆ}て、聲を揚げて曰えり、イイスス夫子よ、我等を 憐 め。イイスス彼等を視て、曰えり、往き
^{おのれ しさいら しめ かれらゆ とときよ そのうちいちにん おのれ いや み かえ}て、己 を司祭等に示せ。彼等往く時 潔まれり。其 中 一 人、 己 の愈されしを見て、返
^{おおごえ もつ かみ さんえい そくか ふふく かんしゃ かれ ひと}りて、大 聲を以て神を讃 榮し、イイススの足下に俯伏して感 謝せり、彼はサマリヤの人
^{い きよ もの じゅうにん あら そのく いづこ あ こ いぞくじん}なり。イイスス曰えり、 潔まりし者は 十 人に非ずや、其九は何處に在るか、此の異族 人

ほか いかん かえ こうえい かみ き またかれ い た ゆ なんぢ しん なんぢ
 の外、如何ぞ返りて、光榮を神に歸せざる。又 彼に謂えり、起ちて往け、爾の信は爾
 すく
 を救えり。

(比較用 口語訳) イエスがある村にはいられると、十人のらい病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちどまり、声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。イエスは彼らをごらんになって、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。そのうちの一人は、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめた。たえながら帰ってきて、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。イエスは彼にむかって言われた、「きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか」。それから、その人に言われた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」。

しゅよ、こ う え い は なん ぢ に き し 、 こ う え い
 主 光 榮 爾 歸 光 榮

は なん ぢ に き す 。
 爾 歸

※ 聖体礼儀③ (金ロイオアン) へ